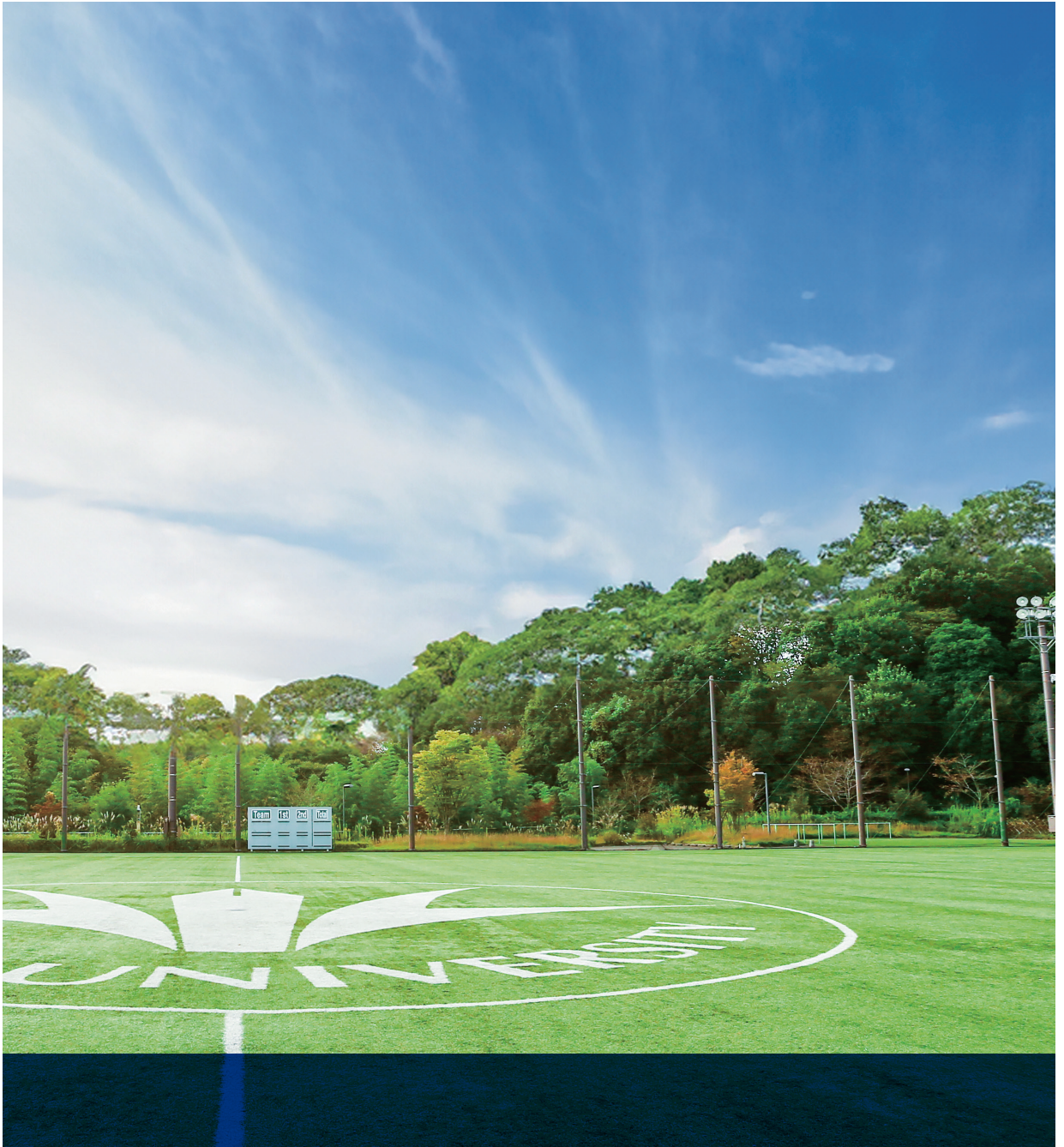


SDGs Report 2025

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT  **GOALS**



Discover your potential



SOKA University

Contents

04	Message
05	Soka University Grand Design
06	Student Story #1
08	Student Story #2
10	Pickup News
14	SDG 01 貧困をなくそう
15	SDG 02 飢餓をゼロに
16	SDG 03 すべての人に健康と福祉を
17	SDG 04 質の高い教育をみんなに
18	SDG 05 ジェンダー平等を実現しよう
19	SDG 06 安全な水とトイレを世界中に
20	SDG 07 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
21	SDG 08 働きがいも経済成長も
22	SDG 09 産業と技術革新の基盤をつくろう
23	SDG 10 人や国の不平等をなくそう
24	SDG 11 住み続けられるまちづくりを
25	SDG 12 つくる責任つかう責任
26	SDG 13 気候変動に具体的な対策を
27	SDG 14 海の豊かさを守ろう
28	SDG 15 陸の豊かさを守ろう
29	SDG 16 平和と公正をすべての人に
30	SDG 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

Message



掛川三千代
創価大学・SDGs推進センター長
経済学部教授

創価大学は、価値創造を実践する「世界市民」を育む大学として、SDGsの達成に向けた教育と研究を推進しています。その根本には、開学以来の生命尊厳に基づく平和・文化・教育を掲げる建学の精神があり、地域と地球社会全体の課題に向き合い、その解決に寄与する人材育成に尽力しています。

大学として、SDGs達成に向けて実施してきました教育、研究、地域貢献の活動を振り返り、直近の1年間を総括する『SDGsレポート2025』（2024年4月から2025年3月末までの活動実績）が完成しました。

最大のハイライトは、英国の『Times Higher Education』が、130カ国・地域の2,526校が申請した大学のサステナビリティについて、総合的に評価をする「THEインパクトランキング2025」において、本学が、日本の私立大学の中で9位という評価を得たこと、また、SDGsの目標別では、GOAL04（質の高い教育をみんなに）とGOAL10（人や国の不平等をなくそう）で、日本の私立大学で、それぞれ1位の評価を得たことです。また、学生たちの豊富なアイデアをベースに社会実装化を目指す「SDGsグッドプラクティス」、学内の2050年カーボンニュートラル達成に向けた着実な進捗、さらに、本学の学生と教職員が、学外の専門家や高校生とともに、SDGs達成に向けて議論し、ネットワークを構築するSDGs対話・ネットワークワーキング会合なども、2024年度のハイライトの一部となりました。

今後も、教職員と学生が一体となり、持続可能なキャンパスづくりと、地域の発展に貢献していきます。

About us

センター員は教職員及び学生の代表で構成され、SDGs推進活動に関する推進方策の企画・立案、SDGsに関する啓発活動、SDGsに関する広報・公表を中心に、関連部署と連携しながら取り組みを推進しています。

- SDGs推進活動に関する推進方策の企画・立案
- SDGsに関する啓発活動
- SDGsに関する広報・公表

創価大学SDGs推進センターは、学内外のSDGs達成へ貢献することを目的に、2019年4月に開設しました。



Soka University Grand Design 2021–2030

創価大学は、2021年に創立50周年を迎えるにあたり、新たな10か年の中長期計画として「Soka University Grand Design 2021–2030」を策定し、実施しています。「世界市民教育」「SDGsの達成」「多様性あるキャンパスの構築」などをコンセプトとして「価値創造を実践する『世界市民』を育む大学」をテーマに掲げています。

名称	Soka University Grand Design 2021–2030
期間	2021年4月1日～2031年3月31日（10か年計画）

価値創造を実践する「世界市民」を育む大学



経営基盤の構築 持続的に発展するための基盤を確立

SDGsに関する主な取り組み

- 「誰も置き去りにしない」というSDGsの中核の理念の実現とともに、SDGs達成を目指します。
- 世界市民教育の体系化の一環で、SDGs指定科目から所定の単位を修得した場合には、卒業証明書に「副専攻:SDGs」と記載されます。
 - 「全学SDGsプロジェクトの推進」「SDGs達成に貢献する人材育成とネットワーク構築」のほか、国連等の諸機関との連携、地域や社会との連携を推進します。
 - 持続可能なキャンパスを目指し、カーボンニュートラルの達成に向けたエネルギー計画を推進します。

第2回 SDGs グッドプラクティスタ입 A 最優秀賞

目指せ食品ロスゼロ!「まもるカフェ」で環境問題の解決に貢献

環境ビジネスを財務の視点から学んでいる野村ゼミでは、8年前から食品ロス削減プロジェクト「まもるカフェ」の活動を続けています。2023年度には初めて創大祭に「まもるカフェ」の模擬店を出し、食品廃棄物削減や資源循環の大切さを学内外にアピールしました。学問と実践の両面から環境問題に取り組む経営学部野村ゼミの大山^{みさと}さんに、「まもるカフェ」の活動や成果について聞きました。

活動概要

「まもるカフェ」は、ゼミ生が自宅から消費期限が近づいた食材を持ち寄り、集まった食材だけで料理を作って食べることで、食品ロスの削減を図るプロジェクトです。

普段の「まもるカフェ」は、捨ててしまう食材を持ち寄り自分たちで食べる活動ですが、創大祭の「まもるカフェ」では、廃棄される食品を減らすというテーマはそのままに、環境に配慮したコーヒーの販売にチャレンジしました。環境への配慮という観点から、私たちが追求したことが2つあります。1つ目は、提供するコーヒー豆やカップに環境配慮型の製品を使うこと。2つ目は、コーヒーを抽出した後に残るしぼりかすの再利用です。店頭で販売したバイオプラスチック製のオリジナルタンブラーには、大学の建物をデザインし、卒業生に好評でした。コーヒーのしぼりかすは、提供してくれた農家の方がコンポスト化し、畑の肥料となっておいしい野菜に生まれ変わりました。目標としていた食品廃棄物ゼロと、大学を起点とする資源循環を実現できたことは、大きな成果だったと思います。



写真中央が大山さん



創大祭での販売の様子



店頭で販売したバイオプラスチック製のオリジナルタンブラー

今後の展望

創大祭の「まもるカフェ」の準備のため、さまざまなことを調べていくうちに、世界には私がまだ知らない環境問題に貢献できる取り組みがたくさんあることに気づきました。自ら知ろうとする姿勢の大切さをあらためて学ぶことができました。

また、私は人前に立つことが苦手だったのですが、創大祭や野村ゼミでの経験を通して、自分の言葉で相手に合わせた説明ができるようになったことに、自分の成長を感じます。それができるようになったのは、ゼミで学んだ知識を自分自身で実践し、体験したからです。知識を実践に移せる環境がある野村ゼミだからこそ得られた成長だったと思います。

野村ゼミでの学びをきっかけに、仕事でも環境問題に関わりたいと考えるようになり、自動車のリサイクルに携わる企業への就職を決めました。

大学で実践的に学んだ資源循環のシステムや環境ビジネスについての知識を生かし、持続可能な世界の実現に少しでも貢献していきたいと思っています。自動車のリサイクルについては、まだ知らないことも多く、卒業論文を通じて入社までに積極的に学んでいくつもりです。



大学を起点とする資源循環の図



野村ゼミの仲間

第2回 SDGs グッドプラクティスタイプ B 最優秀賞

学生団体のTシャツづくりで 衣類のサステナビリティを推進するプロジェクトを実践

環境対応の視点で企業を評価する学びとして、産学連携でSDGsの実践プロジェクトに取り組んでいる経営学部野村ゼミ。活動の一つである「ふくのきもち」プロジェクトの一環として、2024年にゼミ生たちが行ったのが、学内の学生団体がつくるTシャツを環境に配慮したものに変わる取り組みです。中心的役割を担った坂部秀明さんと中川貴裕さんに、プロジェクトの特色や活動に込めた思いについて聞きました。

活動概要

本プロジェクトは、不要になった衣類や在庫生地を焼却処分する際に排出されるCO₂や、廃棄に伴う海洋汚染などの環境負荷に着目し、その解決を目指して始まったプロジェクトです。学内の学生団体が創大祭などに合わせてオリジナルのTシャツをつくっていることに着目し、再生素材を使った環境配慮型Tシャツをつくりたいと希望する団体を募り、CO₂排出量などを計測してもらうことを条件に、Tシャツをつくる費用の一部を助成しました。より多くの学生が環境問題への行動に踏み出してもらうきっかけづくりを目指しました。

まず、私たちゼミ生が専門家のレクチャーを受け、それをもとに学生団体の皆さんに計測方法などを説明し、計測した結果を報告してもらいました。私たちのゼミには「学習・行動・実装」というモットーがあります。単に環境に配慮したTシャツを採用しておしまいでなく、実際に手を動かして計測してもらうことで、環境問題に対して少しでも私たちと意思を同じくしてもらえたらという願いもありました。



プロジェクトのメンバー



学内で販売したTシャツ



捨てられる衣類の回収BOX

活動の成果

4つの学生団体が参加し、計103枚のTシャツをつくることができました。「環境にやさしいだけでなく着心地もよかった」という反応が返ってきました。とても好評でうれしかったです。専門家の指導のもと試算したところ、今回約306kgのCO₂を削減することができました。CO₂排出量の計測を自分たちで行うことに対して、企業の方や先輩からも「学生のうちからこんなことまで取り組んでいるのですね」と、評価のお声をいただいたことが心に残っています。野村ゼミで時代を先取りしたテーマを研究し、それをプロジェクトで実践することができ、大きなやりがいと喜びを感じることができました。ご支援いただいた方には心から感謝しています。

この活動では、単に利益を上げるだけでなく、環境問題解決への貢献を目指し、学生や関係者との協力を重視しています。それは、「つくる人・つかう人・すてる人」の立場から考える人間主義経営を学んだからです。未来の地球のためにという思いに加え、学生にもTシャツを作る企業にもメリットがあるフェアなプロジェクトをデザインできたことも大きな学びとなりました。



学生団体の皆さんに計測方法を説明する様子



学生団体「創価アグリレボリューション」の皆さんが製作したTシャツ



作製したTシャツを着用する創価大学桑の日ウェルネス実行委員の皆さん

Pickup News

経済学部による新プログラム

SDGs実現力を養い、新しい社会をつくるプログラム
～SOKA Sustainable Society Program (S-Cube)～

経済学部の新規特別プログラムで、正式名称はSOKA Sustainable Society Program (S-Cube)。持続可能な社会を創造し、社会実装していく力の習得を目指します。2025年1月、第1期生の24名が決まり、オリエンテーションが行われました。履修生は「S-Cube演習」において、「エネルギー・食料」「開発途上国の貧困」「地方創生」「ESG投資と地方活性化」のテーマに分かれ、具体的な課題についてグループ研究を進め、最終的には施策提案や実現可能性の検証を行います。また、「S-Cube演習」は「社会貢献と経済学」の授業とも連携して進められ、履修生はフィールド調査への参加、外部専門家との意見交換、施策提案に対する講評を受ける機会があります。ゼミ生以外の仲間とのグループ研究や、ゼミの指導教員以外からの助言が受けられることも特色の一つです。



SDGsアンケート

本学では、SDGsに関する認知・関心・行動、及び本学のSDGsへの取り組みの認知・意見に関する全8項目11の質問を学生に実施しています。

調査期間 2024年11月9日(土)～12月1日(日)
調査対象 調査期間において、創価大学に在学中の全学生
回答数 2,583名(一部回答含む)
アンケート方法 学内ポータルを活用したWeb方式

◎結果発表 Summary

98.4%の学生がSDGsを認知し、72.0%の学生がSDGsに関心を寄せていました。特に、GOAL01(貧困をなくそう)、GOAL04(質の高い教育をみんなに)、GOAL05(ジェンダー平等を実現しよう)、GOAL10(人や国の不平等をなくそう)、GOAL16(平和と公正をすべての人に)への関心度が高いことがわかりました。



詳細はこちらをご覧ください。

Pickup News

第3回 SDGsグッドプラクティス

「SDGs」の達成を目指して、貢献度の高い取り組み(タイプA)や、実現可能性の高いアイデア(タイプB)を称え、助成することを目的に、2022年度より開始した制度です。入賞したグループには賞状と副賞が贈られます。また、タイプBの「SDGs達成に資する実現可能性の高いアイデア」として表彰されたグループには、助成金が支給されます。

◎入賞グループ

努力賞

プロジェクト名: **ゴミの削減を目指す施策の提案**

「使い捨てカトラリーの消費量を抑制する施策」と「ゴミの分別率を上昇させる施策」を行い、人々の環境に対する意識の変化を考察しました。



タイプB

優秀賞

プロジェクト名: **“Re:名刺”、始めます。一服から名刺へ！**

名刺交換が情報収集や新たな協働のチャンスを生む機会になることに着目し、回収コットン50%を配合した名刺の作成を提案しました。



優秀賞

プロジェクト名: **資源循環推進部**

学内のゴミの分別を向上させ、資源循環を達成することを目的に、飲料メーカー・リサイクル業者と連携した取り組みを提案しました。



優秀賞

プロジェクト名: **八王子の強みを活かした食品ロスの削減**

八王子市と連携した規格外野菜等の大学構内での販売や学生による意識啓発・教育活動の取り組みを提案しました。



努力賞

プロジェクト名: **多文化共生社会の先駆を切るバイオニアへ**

八王子市在住の非日本語話者に対する学生参画型ボランティアによる言語サポートの取り組みを提案しました。



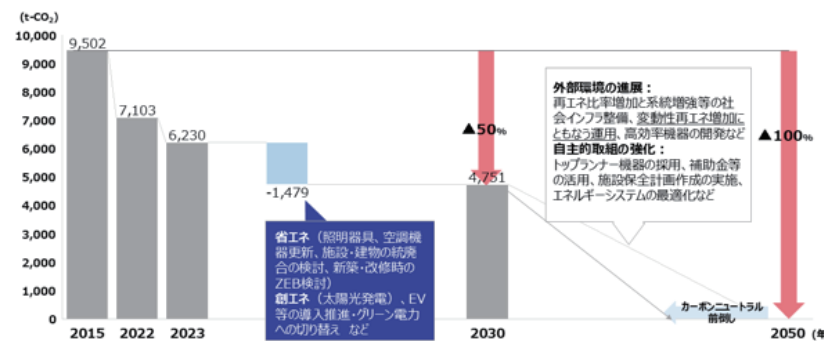
Pickup News

2050年カーボンニュートラル達成に向けて

創価大学は、10か年の中長期計画「Soka University Grand Design 2021-2030」を策定しています。2021年4月には「学校法人創価大学気候非常事態宣言」を発出し、その中で、「2050年、カーボンニュートラルを目指して、再生可能エネルギーの一層の拡大導入及び省エネルギーに努めていくこと」を明記しています。

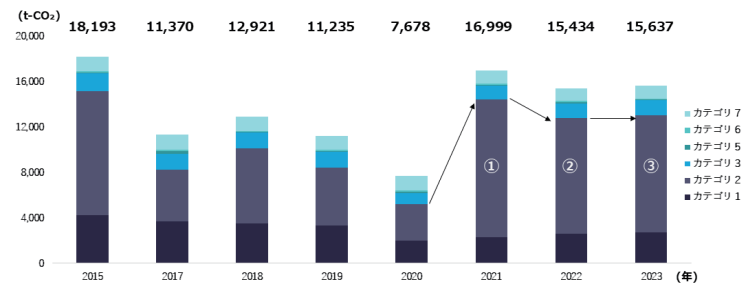
「Soka University Grand Design 2021-2030」では、持続的に発展するための「経営基盤の構築」の中で、「キャンパス整備:サステナブルキャンパスに向けた計画の検討」を掲げており、今般、2050年カーボンニュートラル達成に向けたロードマップを作成し、随時更新しています。

〈Scope1及び2の温室効果ガス排出削減ロードマップ〉



また、15のカテゴリ(事業活動)が存在するScope3のうち、大学の事業活動による排出量が多いと考えられる6つのカテゴリを対象に、2015年度以降の排出量を算定しました。

〈Scope3 排出量算定結果〉



〔Scope1,2,3に関する用語解説〕

Scope1,2,3とは事業者と他社を含むサプライチェーン全体の活動により排出される温室効果ガス排出量の算定範囲基準の考え方を示します。

Scope1:事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)

Scope2:他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

Scope3:Scope1、Scope2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)。原材料調達、輸送、通勤・通学、製品の廃棄等の活動に伴う排出量を示します。

Pickup News

THEインパクトランキング

「THEインパクトランキング2025」(2025年6月18日発表)の総合ランキングにおいて、創価大学が全国私立大学9位タイ(国内総合40位タイ)にランクインしました。

また、SDG別ランキングにおいて、「GOAL04:質の高い教育をみんなに」の分野で全国私立大学1位(国内総合2位)、「GOAL10:人や国の不平等をなくそう」の分野でも同1位タイ(国内総合2位タイ)を獲得しました。

本ランキングは、イギリスの高等教育専門誌『Times Higher Education (THE)』が発表するもので、大学のサステナビリティへの貢献度を国連のSDGs(持続可能な開発目標)の枠組みに基づいて評価・可視化したものです。2025年は世界130の国・地域から2,526校がランクインしました。

○ 各SDGの分野で主に評価されたポイント

質の高い教育をみんなに 国内私大1位

- ◎教員養成で日本トップクラスの実績
 - ・教員採用試験は全国有数の合格実績
 - ・多くの卒業生が全国各地の学校現場で活躍
- ◎地域に開かれた学びの実践
 - ・学校現場の教員向けセミナーを開催
 - ・小中学生向けの出張授業などを実施
- ◎学び直し・再挑戦を支える充実の制度
 - ・多数の公開講座を開催し年齢・背景を問わず、誰もが学べる環境を整備

人や国の不平等をなくそう 国内私大1位タイ

- ◎すべてのメンバーが活躍できる環境づくり
 - ・多様性と包摂性を重視し、平等な機会を促進するダイバーシティ・インクルージョン推進センターの設置
 - ・発展途上国からの留学生およびUNHCRと連携した難民の学生受け入れ
 - ・障害などの理由により修学上の支援が必要な学生のための窓口として、障害学生支援室の設置
- ◎大学独自の奨学金制度
 - ・経済的に修学が困難な学生をサポート

大学独自の奨学金

○ 創価大学の主なランキング結果 (2025年)

分野	世界順位	国内総合順位	国内私大順位
総合ランキング	1001～1500位	40位タイ	9位タイ
GOAL04: 質の高い教育をみんなに	601～800位	2位	1位
GOAL10: 人や国の不平等をなくそう	401～600位	2位タイ	1位タイ
GOAL12: つくる責任つかう責任	301～400位	12位タイ	3位タイ
GOAL14: 海の豊かさを守ろう	201～300位	13位タイ	3位タイ
GOAL17: パートナースhipで目標を達成しよう	401～600位	12位タイ	4位タイ

01

貧困をなくそう

あらゆる場所のあらゆる形態の
貧困を終わらせる



ガザ応援グッズを販売



ASPIRE SOKAでは、2017年から毎年、難民映画祭を通じてフェアトレード商品を販売しています。この取り組みは、創大祭に会場した皆さんに楽しみながら難民支援を身近に感じてもらうことを目的としています。特に注目しているのは、パレスチナ女性難民がひとつひとつ手づくりした刺繍グッズの販売で、彼女たちの手仕事を支援につなげています。また、おしゃれな缶バッジや雑貨も販売し、ガザ地区への支援に貢献しています。この活動をさらに強化するため、NPO団体と連携を深め、啓発と支援の取り組みに力を入れています。身近なところからできる支援があることを、多くの人に知ってもらいたいと考えています。そして、フェアトレード商品の購入が、難民支援の第一歩として、社会的な意識を高める一助となることを願っています。

POINT

- ◎ 創大祭で手に入るおしゃれなフェアトレード商品
- ◎ 買うことで支援につながる
- ◎ 楽しみながらできる社会貢献



学びを支える大学独自の給付奨学金



創価大学では、多くの方々のご支援のもとに、学生の学びを支える独自の奨学金を設けています。一般的に奨学金には、卒業後に返済が必要な「貸与型」と、返済の必要がない「給付型」があります。学生の皆さんが安心して学業に取り組めるように、本学の独自奨学金はすべて給付型です。2026年度からは制度をさらに充実させ、より多くの学生が支援を受けられるようになります。



奨学金ガイドブック

POINT

- ◎ 返還義務のない奨学金
- ◎ 安心して学べる環境を整備



02

飢餓をゼロに

飢餓を終わらせ、食料安全保障及び
栄養改善を実現し、持続可能な農業を
促進する



作物生産の向上に貢献する バイオ炭の研究を推進



理工学研究科の教員と大学院生が、バイオ炭の土壌改良効果及び農業利用の研究に関して複数の学会で表彰されました。教員は2024年度の「日本炭化学会賞」を受賞。3名の大学院生はアメリカ農学会(ASA)国際年次総会の大学院生口頭発表セッションにおいて第3位、第2回バイオ炭研究応用に関する国際会議およびアジア太平洋バイオ炭会議(ICBRA&APBC)において優秀ポスター賞、さらに2024年度の日本炭化学会において優秀発表賞(奨励部門)をそれぞれ受賞しました。バイオ炭はバイオマスから生成される炭素に富んだ土壌改良材で、土壌に混和することで作物生産を向上し、食料問題解決に貢献できる持続可能な技術です。

POINT

- ◎ 土壌環境を改善し、土壌生産性を向上させるバイオ炭の研究において国内外で活躍



100円朝食の継続



創価大学では学生サービスの一環として、学生が健康的な朝食から規則正しい1日をスタートできるよう2014年度より100円朝食を実施しています。授業期間の午前8時から10時までニュープリンス食堂で提供しています。100円朝食は、朝食を取らない学生やパン等ですませている学生に対して、授業前に安くて栄養バランスのある食事をワンコインで提供し、学生の食生活改善に寄与することを目的に開始しました。朝食メニューは日替わりで、ご飯と味噌汁にハンバーグや魚、フライ等のおかずが付きます。学生からは「100円朝食のおかげで早起きし、勉強するリズムができました」等の声が寄せられました。

POINT

- ◎ 食生活改善に寄与



03

すべての人に健康と福祉を
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する



創大祭での女性の生理についての展示



POINT

- ◎言葉にしづらい悩みを共有
- ◎声にならない声を出せる・発せる場（機会）作り
- ◎学内に理解を広げる

Voice Up Japan SOKAでは、2024年7月に「ディズニーとジェンダー」というテーマでワークショップを行いました。2024年10月の創大祭で生理に関する展示を行い、2024年12月には学内にて「生理快適セミナー」を開催しました。すべてのイベントにおいて、「参加して良かった」「新しい発見があった」との感想が寄せられました。日々の言葉になりづらいモヤモヤを共有することで、女性はより自由に、そして、より生きやすい社会が構築できるとの思いで活動しています。ジェンダーによるステレオタイプは日常にたくさんあります。まずはそのことを認識し、自分の選択肢を広げていくことを大切に、これからも、すべての女性が自分らしく自由に生きられる社会のために活動をしていきます。



看護師国家試験に 2024年度卒業生が合格



POINT

- ◎生命の尊厳を守り生命力を引き出す看護の実践

看護学部は「価値創造を实践する世界市民」の資質をもち、人々と社会に貢献する看護専門職者を育成するため、2013年に開設されました。学部開設以来、建学の精神と看護学部の指針をもとに、学生一人ひとりの豊かな人間性を育み、あらゆる人の生命の尊厳を守り、生命力を引き出す慈愛にあふれた看護を实践できる人材の育成に取り組んでいます。第114回看護師国家試験（2025年2月16日実施）に78名が合格しました。



04

質の高い教育をみんなに
すべての人々への、包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する



児童館での活動



POINT

- ◎子どもの幸福の実現
- ◎児童文化財を広げる
- ◎地域の児童館や小学校での活動

児童文化研究部では、地域の児童館や小学校と協力しながら、人形劇・パネル劇の上演や部員が作成した企画を通して子どもたちと交流し、「子どもの幸福の実現」に向けて活動しています。また、長野県飯田市で行われる「いいだ人形劇フェスタ」に参加し、人形劇・パネル劇の上演を通して多くの方にお話を届けています。活動の中で、児童文化財という子どもの成長を支えるものを後世に残すこと、「子どもの幸福の実現」を目指す輪を広げてきました。今後も、地域の方々と連携しながら、目の前の一人を大切に「子どもの幸福の実現」に向けて活動していきます。



通信教育部で科目等履修を開講



POINT

- ◎目的に応じて必要な科目・単位の修得が可能

通信教育部では、「スキルアップのために学びたい」「生涯学習を志したい」「資格取得を目指したい」など、目的や目標に応じて必要な科目・単位を修得することができる科目等履修を開講しています。科目等履修では、学びたい科目を自由に選んで学ぶ「自由選択コース」、大学入学資格のない方が通信教育部の正科課程への入学資格を得るための「特修生コース」、教員免許状の取得に必要な一部単位を修得したい方、上級・隣接校種の免許状を取得したい方向けの「教職コース」のほか、保育士や認定こども園の保育教諭の方が幼稚園教諭免許状を取得できる「教職コース（幼保特例・新特例）」を設置しています。通信教育部では、年齢や居住地、職業などにかかわらず、より多くの方へ学びの機会を提供しており、2025年3月には、通信教育部より80歳以上の学生5名が卒業しました。



05

ジェンダー平等を実現しよう

ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う



女性が安心して過ごせるキャンパス



POINT

- ◎ 女性専用エリアの設置
- ◎ 学生の要望が実現

2024年度から生理用品の無償配布を開始しました。2023年度の全学協議会で、構内トイレに「生理用品の無償設置」の提案要望があり、生理用品の試験的設置を実施の末、学生の声が実現しました。実施アンケートには、多くの学生から利用しやすいとの声が寄せられました。また、設置場所の見直しの際には、寄せられた意見を反映し、より利用者目線に立った無償配布を行うことができました。また、中央教育棟4階に2013年より設置されている女性専用エリア「フラワーラウンジ」は、プライバシーが確保され、女性が安心してくつろぎ、読書や学習に集中できる憩いの場として多くの学生に利用されています。



男女共同参画と多様性 (ダイバーシティ) への対応



POINT

- ◎ 講演会による啓発活動

本学は、教員、学生、職員がそれぞれの個性を最大限に発揮できるような環境づくりを目指し、ダイバーシティ・インクルージョン推進センターを設置しています。2030年度のグランドデザインで掲げた「多様性のあるキャンパスの構築」を実現するため、以下の3つの目標を掲げ、具体的な取り組みを進めています。

- ① 女性教員比率を全学部で20%に
- ② 女性職員比率を40%に
- ③ 女性管理職比率の目標設定と達成

この一環として、2024年6月8日には「日本の高等教育界におけるダイバーシティ・インクルージョンの現状と今後への展望」と題したイベントを開催し、慶應義塾大学の三尾裕子教授(日本学術会議 第25期第一部総合ジェンダー分科会委員長)にご講演いただきました。



06

安全な水とトイレを世界中に

すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する



排水中の重金属の分離回収による下水汚泥の有効利用

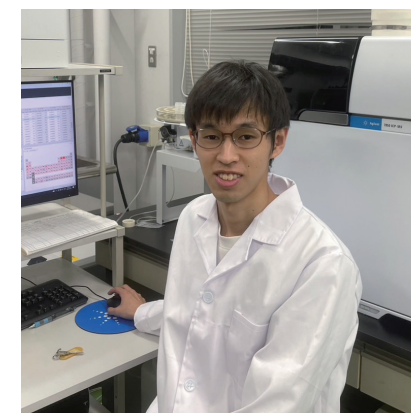


POINT

- ◎ 重金属の除去による安全な処理水の再利用を目指す
- ◎ 下水汚泥の有効活用による水資源循環と環境保全に貢献

下水処理施設で発生する下水汚泥には、作物の生育に不可欠なリンや窒素などの栄養素が含まれており、鉱石資源に代わる新たな資源としての活用が期待されています。しかし、汚泥には地下水や工場排水に由来する重金属が含まれる場合があり、肥料として利用した際に作物の生育阻害や食物連鎖を通じた人や動物への健康被害が懸念されます。

こうした課題に対応するため、理工学部の戸田龍樹教授は(滋賀県立大学からの再委託業務として)共同研究プロジェクトを推進しました。本研究では、pH調整処理や吸着材の利用によって重金属を効率的に除去し、安全かつ持続可能なリン資源循環の確立を目指しています。この技術により、水資源の有効利用や環境負荷の低減に大きく貢献できると期待されています。今後は、さらなる技術改良と社会実装を進めることで、持続可能な社会の実現に向けた一層の貢献を目指しています。



マイボトル用ウォーターサーバー導入



POINT

- ◎ 廃棄物、CO₂排出削減へ
- ◎ 学生からの提案で実現

学生からの提言で、2020年9月よりウォーターサーバーを試験導入し、2021年4月から9台を設置しました。導入した製品は、ウォータースタンド株式会社の水道直結型の「ナノシリーズ トリニティ」で、3段階フィルターシステムで、安心でおいしい冷水と常温水を無料で提供しています。学生からは、「大学で水を買わなくても良いし、ペットボトル削減にも貢献できるので、ウォーターサーバーを大いに活用しています」との声が多く届いています。



07

エネルギーをみんなにそしてクリーンに
すべての人々の、安価かつ信頼できる
持続可能な近代的エネルギーへのアク
セスを確保する



シェアサイクルの設置



経済学部掛川ゼミでは、2022年にゼミのグループ研究で交通分野における二酸化炭素排出量の少ないシェアサイクルの利用促進を取り上げ、八王子市に施策提言を行いました。その後、大学、八王子市、企業と協議を重ね、2024年4月にキャンパスにシェアサイクルが導入されました。現在、学内では3ヵ所にシェアサイクルのポートが設置されています。本制度を導入後、2024年5月から2025年3月までの8ヵ月で、二酸化炭素排出量の削減にどれほど貢献したかの算出を行ったところ、約2トンの二酸化炭素削減の効果があったことを確認しました。持続可能な社会実現のため、今後もシェアサイクルの利用促進及び、より正確な二酸化炭素の削減量の算出を行い、見える化を進めていきます。

POINT

- ◎学生の研究に基づく施策提案の実現(シェアサイクルの大学への導入)
- ◎脱炭素の取り組みの促進と、二酸化炭素排出削減量の見える化(削減量の算定)



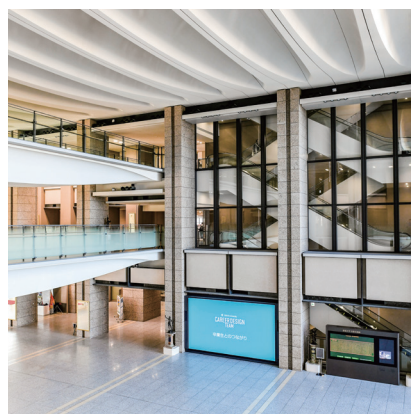
使用電力の一部を 再生可能エネルギー由来に



創価大学では、使用電力の一部(2024年は10%)を、再生可能エネルギー由来の実質CO₂排出ゼロの電力に切り替えています。導入する電力には、太陽光や水力といった再生可能エネルギーの環境価値を証書化した「トラッキング付非化石証書」を活用しています。この証書は、発電所の種類や所在地といった情報が紐づけられているため、どのような再生可能エネルギーを使っているかを具体的に証明できるものです。これによるCO₂削減量は年間600トン程度となる見込みです。

POINT

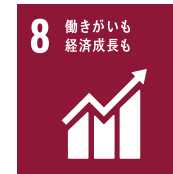
- ◎「トラッキング付非化石証書」を活用



08

働きがいも経済成長も

包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する



キャリアイベント×SDGs



キャリアサポートスタッフ(以下CSS)は、1年生向けのキャリア科目「キャリアデザイン基礎」の授業にて、サポート役として活動しました。全15回の授業では、自己や社会の理解を深めるワークを複数実施し、授業外では受講生との面談を合計2回行いました。また、キャリアイベントの開催を通じて、1・2年生の業界・仕事理解を深めることができました。これらの活動を通じ、CSS自身も、「働きがい」について深めることができました。さらに、11月2日に実施した「Design Your Dreams(通称:DYD)&SDGs」では、SDGsに関心のある学生が、キャリアや仕事と社会課題を結びつけて将来を考えられるように、SDGs達成に向けた各職場の取り組みについても紹介がありました。

POINT

- ◎1・2年生の内的・外的キャリアの進化と深化



2024年度第3回学士課程教育機構 FD・SDセミナーを開催



2025年2月18日、公立千歳科学技術大学理工学部教授の小松川浩氏を講師に迎え、「学生の自律的な学びを促す生成AIの活用: 千歳科学技術大学の導入事例を参考に」と題して、AIにはできない「人の学び」とは何か、教学マネジメント指針や大学設置基準改正の視点から45時間の学修時間の設計、教育の質向上を意識した負担軽減について生成AIを活用してどのように実現するか等について、千歳科学技術大学の具体的な実践事例を交えながらお話しいただきました。61名の本学教職員が参加し、終了後のアンケートでは、「授業設計の重要性と生成AIの活用の観点からお話しただけなのが非常に的を射っており重要な観点であると思いました」等の声が寄せられました。

POINT

- ◎生成AIを活用した職場環境の改善



09

産業と技術革新の基盤をつくろう

強靱（レジリエント）なインフラ構築、
包摂的かつ持続可能な産業化の促進及び
イノベーションの推進を図る



ソビット チームSOBITSの活躍



理工学部崔研究室及び萩原研究室のメンバーで構成されるチームSOBITSは、2024年4月、滋賀県で開催されたRoboCup Japan Open 2024の、主に家庭環境での生活支援をテーマとする@Homeリーグの複数のカテゴリーに出場しました。最難関とされるOpen Platform Leagueでは、4年連続で第1位に入賞しました。さらに、同年9月にマレーシアで開催されたRoboCup Malaysia Open 2024に初出場し、Best Presentation Awardを含む3つの賞を受賞しました。他にも学外へロボットに関するソフトウェアを共有する取り組みを進め、チーム内外の研究促進を図っています。

POINT

- ◎ 人の生活を支援するロボットの開発
- ◎ ロボットに関するOSS（オープンソースソフトウェア）の取り組み（外部とのオープンなハード・ソフトの共有）



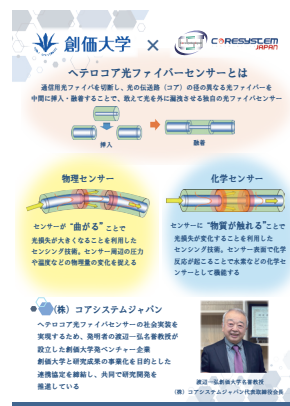
私立大学等改革総合支援事業 タイプ4「社会実装の推進」に選定



2024年度私立大学等改革総合支援事業タイプ4「社会実装の推進」に初めて選定されました（全国では49校）。特に地域・産学連携センターが推進している創価大学発スタートアップ企業（株）コアシステムジャパンとの共同研究開発による「ヘテロコア光ファイバーセンサー」の実用化への取り組みが高く評価されました。創価大学と（株）コアシステムジャパンは、2024年12月に八王子で開催された「たまた未来連携EXPO2024」への共同出展や、主力製品である「光ファイバー水位センサー」の下水道事業への活用等、協力して社会実装の推進に取り組んでいます。

POINT

- ◎ 大学発スタートアップの推進
- ◎ 知的財産の活用、社会実装の推進



10

人や国の不平等をなくそう

各国内及び各国間の
不平等を是正する



性別に基づく差別についての啓発



創価Rainbow Actionsが学内におけるセクシャルマイノリティに関する知識啓発を目的とし、2024年の10月から12月の期間、月に1回の展示を行いました。該当の月の記念日や記念週間に関連したトピックを取り上げ、日本語と英語の二言語で展示資料を作成しました。感想が書き込めるスペースを設置し、さまざまな国籍の留学生からも感想が寄せられました。今後も、知識の啓発活動などを通して、本当の意味で多様性を尊重し合えるキャンパスづくりに取り組む予定です。

POINT

- ◎ 性別・性的指向に基づく差別についての啓発
- ◎ セクシュアルマイノリティに関する知識啓発
- ◎ 定期的な学内展示



難民を対象とした推薦入学制度



2016年に国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所、国連UNHCR協会と、難民を対象とする推薦入学制度「UNHCR難民高等教育プログラム（RHEP）」に関する協定を締結し、2017年4月より毎年1名の学部生を奨学生として受け入れる枠を設けています。当該学生に対して原則4年間、学費を免除するほか、生活支援の奨学金を給付し、経済的な理由で日本の大学に通うことが困難な難民に対して大学教育の機会を提供してきました。さらに、2021年6月には、大学院においても同協定を締結し、国際平和学研究科（修士課程）での受け入れを実施しています。

POINT

- ◎ 難民地域の留学生向けの経済支援



11

住み続けられるまちづくりを

包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で
持続可能な都市及び人間居住を実現する

11 住み続けられる
まちづくりを



ベートーヴェンの「選書コーナー」を開催



POINT

- ◎書店と協力してブックフェアを展開
- ◎「第九」初演200周年を記念し、推薦ポップやポスターを学生が作成

文学部科目「哲学・思想特講」(担当:伊藤貴雄教授)の受講生は、2024年秋に、くまざわ書店八王子店にて、ベートーヴェンの「第九」初演200周年を記念する「学生選書」を開催しました。最新の研究だけでなく、子ども向けの入門書、ベートーヴェンの作品やその人生が現代に与える示唆を考える本など、多様な33冊を揃えました。チラシ、ポスターのデザインに加え、全33冊分の推薦ポップを学生が作成。地域のミニコミ誌『ASAメール』(朝日新聞八王子中央・西八王子販売店発行)にも紹介され、広く注目を集めました。さらに2025年度には、「八王子・高尾山」をテーマにした学生選書を、9月より同書店で実施しています。



まちづくり八王子フィールドワーク



POINT

- ◎実践的な学びを深める
- ◎地元地域の課題解決の提案

法学部和足ゼミでは2015年度から「まちづくり八王子フィールドワーク」(八王子市連携講座)を開講しています。本授業は「八王子市の地域社会を実際に観察し、直面している課題を発見し、それを解決する政策を提案する」というものです。2024年度は「大学生が担う地域貢献」をテーマとして実施しました。具体的には、八王子市の職員や地元住民と協力して、地域の現状と課題について学び、滝山城跡などの観光資源や農産物の活用・PR方法を考えた上で解決策を提案し、地域協議会での意見調整にも関わりました。和足ゼミではこのように密度の高い「探究型授業」を通して、学生たちは社会で活躍するための「現地調査・企画立案・運営実施」という実践的能力を磨いています。



12

つくる責任つかう責任

持続可能な生産消費形態を確保する

12 つくる責任
つかう責任



マイカトラリー持参の促進



POINT

- ◎国際学会で Best Poster Award 受賞
- ◎持続可能な社会実現に貢献

2024年度前期・後期、経済学部蝶名林ゼミは学生ホールにてマイカトラリー(個人の箸やスプーン等)持参者への割引施策を実施し、使い捨てカトラリーの削減に取り組みました。その結果、使い捨てカトラリーの使用本数を減らすとともに、環境保護への関心と行動を促進しました。学生からは「環境問題への意識をもつきっかけになった」との声も寄せられています。さらに、本研究成果は2025年8月に北京で開催されたアジア環境資源経済学会大会において Best Poster Awardを受賞しました。蝶名林ゼミは、学内外で環境問題の解決に貢献する多様な施策を展開しており、今後も持続可能な社会の実現に向けた活動を継続してまいります。



ミックスペーパーの回収



POINT

- ◎ミックスペーパー用ゴミ箱の周知
- ◎紙製品のリサイクル推進

創価大学では、燃えるゴミやプラスチックゴミのゴミ箱に加え、ミックスペーパー用のゴミ箱を設置し、紙製品のリサイクルを推進しています。本学の管理部が中心となり、ゴミ箱に出せる紙製品(紙マーク付きやほとんどの紙製品)と出せないものについて明記したポスターを作成しました。また、大学全体でミックスペーパー用ゴミ箱の認知を徹底できるよう、さらなる掲示物デザインの改良や周知方法を検討しています。この取り組みを通じて、キャンパス内での3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進とエンカル消費を促進しています。



13

気候変動に具体的な対策を

気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる



気候変動対策に関する実践者・学生・教員間の対話会合を開催



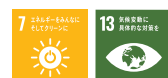
POINT

- ◎ SDGs達成に向けた実践者と学生の対話交流
- ◎ SDGsの分野を越えたネットワーク形成

2024年12月15日、「大学と地域の脱炭素化に向けて」をテーマに、実践者10名（ビジネス実務者、専門家、研究者等）を招き、第4回「SDGs達成に向けた実践者と学生・教員の対話・ネットワーキング会合」を開催しました。本企画は、学生のSDGs活動や研究に外部からフィードバックを受け、分野を越えた対話とネットワーク拡大を目指しています。今回は、学生から環境に配慮した学生団体Tシャツの製作、創価大学内での規格外野菜販売、八王子市におけるバス利用に影響を与える要因の検証の3つの研究発表がなされました。本会合には高校生と高校教員が初めて参加し、多様なステークホルダーと連帯を深める場となりました。



「ゼロカーボン・キャンパス・ワーキンググループ」の幹事大学として貢献



POINT

- ◎ 脱炭素化を積極的に推進

2021年7月「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」が、文部科学省、環境省、経済産業省により設置され、大学等の高等教育機関や研究所等が協働し、大学や地域での脱炭素化を積極的に進めていくことが打ち出されました。創価大学は、コアリションが設置された当初から、ゼロカーボン・キャンパス・ワーキンググループと、地域ゼロカーボン・ワーキンググループに所属しています。ゼロカーボン・キャンパス・ワーキンググループ（掛川三千代教授が代表参加）において、2024年3月に、京都府立大学、宮崎大学とともに、同ワーキンググループの幹事大学になり、引き続き、ワーキンググループに所属する他大学等とともに、2050年までに大学キャンパスのゼロカーボン化を目指し、各大学が持つ経験や知見の共有と、キャンパス内のCO₂削減について、意見交換を続けています。



14

海の豊かさを守ろう

持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する



バイオプラスチック製レジ袋・ゴミ袋の開発



POINT

- ◎ 八王子産米の副産物バイオマスを有効利用
- ◎ 地域活性化とSDGs達成に貢献する取り組み

理工学部丸田ゼミでは、八王子産米を使った吟醸酒の副産物である米粉を活用し、SDGsと地域社会への貢献を進めています。地域の企業・団体と連携し、米粉を用いた食品やプラスチック代替品、バイオプラスチック製レジ袋・ゴミ袋を開発し、食品ロス削減やプラスチック環境問題に貢献してきました。今後は、産学連携を通じて地域密着型の持続可能な製品開発を進め、大学発のベンチャー企業設立を目指しています。



「持続可能な地球社会の実現に向けた資源循環利用技術に関するシンポジウム」開催



POINT

- ◎ 資源循環技術の最前線に触れる、国際的課題への理解を促進

プランクトン工学研究所と理工学研究科の共催で、持続可能な社会形成に向けた資源循環利用技術に関するシンポジウムを2025年2月21日に開催しました。学内外の専門家を招き、家畜ふん尿のメタン発酵によるバイオガス化や、国内外の湖沼で過剰繁茂する水草を微細藻類や土壌改良材として活用する最新研究事例が紹介されました。国際的な環境課題への応用を含む多角的な講演内容は、研究の視野を広げるとともに、学生の進路選択や社会課題への理解を深める貴重な機会となりました。



15

陸の豊かさを守ろう

陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する



環境保全活動のお手伝い



POINT

- ◎ 農業・環境問題への理解
- ◎ ボランティアを通じた地域社会への貢献

農業サークル「創価アグリレボリューション」は、「生命育む大地と共に平和(みらい)を築く探求者たれ!」という指針のもと、農業と環境について学び、自然との共生を探求しています。2024年度は、野菜や環境問題に関するプレゼンテーションを行い、大学内で季節の野菜を栽培しました。また、市内農家で稲刈りや玉ねぎの苗植え、農業イベントのスタッフなど、ボランティア活動を行いました。これらを通じて、環境保全の重要性を学び、地域社会とのつながりを深めました。今後は、さらに活動の幅を広げ、環境意識の向上や地域活性化に取り組めます。



アマゾン森林保護の現場を視察



POINT

- ◎ アマゾン森林保護の現場を研修先候補として視察
- ◎ 実践的・国際的な学びを目指す学科設置と連携

2026年4月開設の「理工学部グリーンテクノロジー学科」の海外短期研修先候補として、ブラジル・マナウス近郊に位置する「アマゾン持続可能農村プロジェクトセンター(PRUSA)」の植林事業現場を2025年2月に視察しました。田中所長らと意見交換を行い、同センターが取り組む植林やアグロフォレストリーの現場、学生が宿泊可能な施設の見学を行いました。同学科では地球規模の環境課題を現地で学び、実践する研修プログラムを実施予定です。



16

平和と公正をすべての人に

持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する



21世紀建学学生協議会



POINT

- ◎ 学生主体の大学運営に向けた協議
- ◎ 創立の精神を根本とした協議の場
- ◎ 「学生主体」「学生参画」の大学運営を実現

「21世紀建学学生協議会」は、各学生組織の運営や大学全体の課題に向き合い、創立の精神を根本にした大学運営を目的として、各組織のリーダーで協議を行っており、2024年度は12回開催しました。特に、創立者の人間主義の理念を継承するための協議を重ね、11月15日を「若き創立者の日」と制定しました。これからも「学生主体」「学生参画」の大学運営を推進してまいります。



社会起業家による初年次セミナー



POINT

- ◎ 社会貢献を目指す企業について学ぶ
- ◎ 公正でサステナブルなモノづくり

2024年7月、経営学部の初年次セミナーで、イノウエブラザーズの井上聡氏に講義をお願いしました。講義では、イノウエブラザーズの設立の経緯や、社会貢献を目指す企業が実際にどのような仕組みで機能しているのか、また、会社名やロゴといった、普段何げなく見ているものにも、さまざまな思いが込められていることなどを話され、質疑応答では、社会課題の解決に向け、志を共有する仲間と協力していくことの重要性についても学びました。学生からは、「自分の夢を実現するために努力する姿勢に深く共感しました。困難な状況を乗り越え、継続的に努力を重ねた結果であることがよくわかりました。私も将来、同じように困難を乗り越え、夢を実現したいと強く思います」などの声が寄せられました。



17

パートナーシップで目標を達成しよう
持続可能な開発のための実施手段を強化し、
グローバル・パートナーシップを活性化する

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



学生発案の映画上映会で 難民への理解を広げる



POINT

◎ 関連団体とのコラボレーション

2024年10月13日と10月18日に映画『ムクウェゲ「女性にとって世界最悪の場所」で闘う医師』の上映会を開催し、学内外より約80名が来場しました。1回目は上映会のみを、2回目はクラブ団体「パン・アフリカン友好会」によるオープニングアクトから始まり、映画上映とASPIRE SOKAによるプレゼンテーションを行いました。学内他団体との協力を行うことで、より多くの方が来場し、難民に対する理解をさらに広げることができました。今後も、さらに多くの団体と協力し、難民への理解の輪を広げる機会を提供していきます。



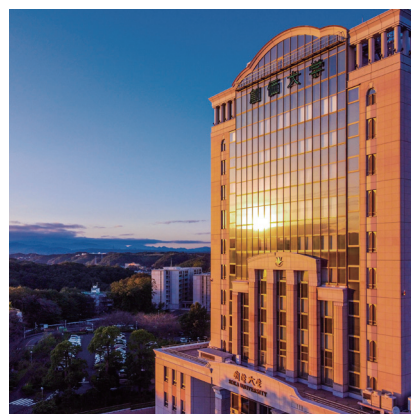
第40回国連大学グローバル・セミナーへの 参画



POINT

◎ 第40回国連大学グローバル・
セミナーに本学学生が参加

2024年8月21日から24日にかけて、第40回国連大学グローバル・セミナー「持続可能な地球と社会へ向けてー能登、金沢、白山から学ぶレジリエンスとイノベーション」が石川県で開催され、法学部4年 Yoon Pannさん、経済学部4年黒岩伸之介さん、国際教養学部4年内藤由美さんが参加しました。本セミナーは、現代社会が直面している地球規模の問題と国際連合の取り組みについて意識を高めることを目的に開催されました。国内外の著名な学者や実務家による講演や、世界各地より参加した学生、社会人とのグループ討論を通して、交流を行いました。学生からは「環境、開発、文化の共存において多くのアイデアを得ることができました。また、多種多様な参加者と交流できて考えが広がりました」との感想が寄せられました。



SOKA University SDGs Report 2025

発行日： 2025年10月1日

発行人： 創価大学SDGs推進センター長
掛川三千代

編集担当：創価大学SDGs推進センター事務局
SDGs推進センター学生委員

発行所： 創価大学SDGs推進センター
東京都八王子市丹木町1-236 〒192-8577
sokauniv-sdgs@soka.ac.jp
www.soka.ac.jp/about/sdgs

*本レポートは、2024年度に実施した取組を記載しております。



Discover your potential